

編集後記

春の彼岸ともなると庭に植えてあるアセビが壺形の花を総状につけて春の訪れを知らせてくれる。

アセビは山地に自生するツツジ科の常緑灌木で、花が春早くから咲き、総状の花を多数着けることから庭木として喜ばれている。また、昔は「馬酔木境」と言って畑の境界線の目標としてよく植えられていた。アセビの別名は「馬酔木」ばすいばくとも言われ、馬や牛がアセビの葉を食べると酒に酔ったようになるということからこの名がついたと言われる。

アセビなどツツジ科の植物にはグラヤノトキシンという有毒成分が含まれていて、有毒性は古くから知られていた。紀元前4世期のギリシャの哲学者クセノフォンは兵士達がハナヒノキ(ツツジ科)に飛来してできた蜂蜜によって中毒をしたという記述があり、また最近ではトルコでツツジ属の花から採った蜂蜜によって中毒事故が起きたという記録がある。こうしたことから古くからアセビやレンゲツツジ、ハナヒリノキなどが有毒植



▲アセビ

物として知られている。

日本でも昔はアセビの葉を煎じて殺虫剤として利用したり、アセビやレンゲツツジの自生する放牧地では羊や山羊の中毒事故が報告されている。山羊の場合アセビを体重の0.1%を摂取すると中毒が起きるといわれ、人間の場合でも葉や果実を誤食すると下痢、嘔吐、腹痛、酩酊状態、呼吸困難などの症状を起こす。

これからの季節、これらツツジ属の花が咲きだすが、これらのことを知って観賞することも大切なことです。

㊦



▲レンゲツツジ



▲ハナヒリノキ

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成18年3月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)
植調第39巻第12号 (送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)